

令和二年度海田小学校卒業証書授与式式辞

日野浦山から吹く風に春の訪れを感じる今日のよき日に、六十六名の卒業生が巣立ちの日を迎えました。

本来であれば、今年の卒業証書授与式は、リニューアルされたばかりのこの体育館に、在校生や、たくさんのご来賓の皆さま、地域の皆さまをお迎えして盛大に皆さんの門出を祝福したいと思っておりました。しかし、今年度もコロナ禍により、ご参加いただく人数や式次第を大幅に縮小した形で式を行うこととなりました。このような状況の中、海田町教育委員会 教育委員 米丸禎宏様、海田町教育委員会学校教育課教育次長 伊藤仁士様、教育指導監 松本孝司様、保護者の皆さま方にご臨席賜り、厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今、一人一人に渡した卒業証書は、小学校六年間を修了した証です。皆さんはこの一年間、委員会やクラブ活動、縦割り掃除、挨拶運動など、最高学年として本当に海田小学校を支えてくれました。まず、このことに私から感謝の気持ちを伝えます。「六年生のみんな、ありがとう」

さて、皆さんが六年生になったこの一年を振り返りますと、日本国内だけではなく、世界中が新型コロナウイルス感染症という脅威に、大変な試練を強いられる一年でした。本来であれば、六年生として学校行事で最も活躍してもらえらる年だった今年度は、運動会や水泳記録会、ドミノ発表会など大きな行事のほとんどが中止になりました。海田小学校のリーダーとして活躍したくても活躍する場のない状況に、皆さんも辛い思いをしたことと思います。

しかし、私は、試練というものは、乗り越えることができたとき、人を大きく成長させる力になると思っています。卒業生の皆さんが全力で取り組んだ先月のきずな集会を思い出してください。限られた貴重な行事だったからこそ、皆さんがリーダーシップを発揮し、密を避け、感染予防をするためにどうやってきずな集会を開くかを一生懸命考えていましたね。運動場や教室に分散して班ごとにお店を開き、店を回るのも二組に分けるという新しい形のきずな集会を開くことができたのは、試練を乗り越えた大きな成果です。

これからの社会は、コロナ禍のように何が起きるか予測ができないことがまた必ず起きると思います。卒業にあたり、私から伝えたいのは、これから先も、試練がやってきたときには、きずな集会でアイデアを出しながらみんなで協力して乗り切ったことを思い出し、新しいことをつくり出す「創造する心」を持ち続けてほしいということです。創造する心を持ち続けていれば、どんな変化や試練も必ず乗り越えられると思います。それでも中学校に行き、本当に困ってしまったら、いつでも海田小学校を訪ねてきてください。海田小学校は皆さんの母校です。いつまでも卒業生の皆さんを温かく迎えてくれることでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆さま、本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様が立派に成長されたことを心からお喜び申し上げます。六年間、いろいろなご苦勞があったことと思いますが、今日のこの晴れ姿をご覧になり、その苦勞も喜びに変わったことと思います。

皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げますとともに、これからも本校の子供たちのために、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和三年三月二十三日

海田町立海田小学校 校長 木村 彰